

はじめに - ミニラグビー指導者の皆様へ

1 用具について

プレーヤーの安全を確保するために、用具について以下のように定めます。	
1	スパイクを使用する場合、プレーヤー及び指導者の靴底は非金属製の固定式スタッド及びブレードタイプのもthingとします。取替え式スタッドの使用は禁止します。
2	ショルダーパットの使用は禁止します。
3	マウスガードを使用する場合は、歯科医の監督指導のもとで製作されたものを使用してください。

2 安全対策について

以下の点に留意して、安全に楽しくプレーできる環境を整えてください。	
1	プレーヤーの年齢、体力や発達段階、天候、グラウンドコンディション等を考慮した練習・試合を計画、実施してください。特に練習や試合での水分補給については十分に注意を払うこと。
2	タックルやモール、ラック等コンタクトを伴うプレーを指導する際には、学童・幼児の発達段階を踏まえた上でコンタクト時の正しい姿勢を徹底させるとともに、スキル等の指導を十分に行ってください。
3	指導者は積極的に安全対策講習に参加するなどして、安全対策への意識を高めるよう心がけること。

3 指導者の態度について

ミニラグビーは、ラグビーの普及を第一のねらいとして行われるものです。全てのプレーヤーにラグビーの楽しさを体験させてあげてください。そして、たくさんのラグビー好きな子どもたちを育ててください。	
1	「全てのプレーヤーに全てのスキルを」を念頭に、試合に勝つことだけを目指した練習よりも、ラグビーの魅力を体感できるようなスキルの習得に時間をかけてください。
2	指導に当たっては、自分の経験からだけでなく、プレーヤーの年齢や心理的、身体的発達特性を理解した上で、その時期に適した練習方法を計画してください。
3	小学生やその保護者にとって、コーチはラグビー精神の具現者です。 ○レフリーに対して ○オフィシャルに対して ○全てのプレーヤーに対して ○ラグビーに対して どのように振る舞うのが正しいのかを態度・行動によって示してください。
4	レフリー、タッチジャッジは、中立的立場であり、どちらのチームに対しても助言等をしてはいけません。但し、危険なプレー、オフサイド等の反則を予防する為の指導は除きます。
5	ハーフタイムは、ハーフウェイライン付近にとどまるよう努めてください。

「基本原則」

U-12（12歳以下）の年代の試合に適用するU-12ミニラグビーの競技規則は、インターナショナルラグビーボード（IRB）が定める競技規則に準拠する。また、日本ラグビーフットボール協会制定の高専・高校以下の為の特別競技規則、ジュニア・ラグビーの競技規則の該当する条項に関してはその趣旨を認識し準拠する。その中でU-12（12歳以下）に適用する独自の競技規則については本U-12ミニラグビー競技規則において規定する。

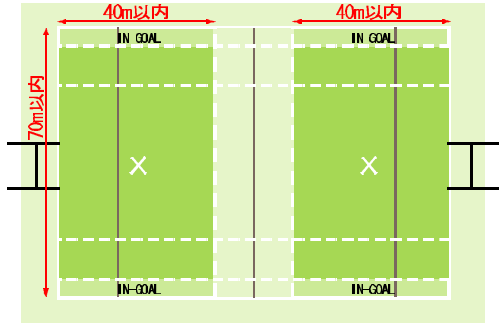
〔ELVsに関する確認事項〕

IRBが2008年8月1日から実施する試験的実施ルール（以下「ELVs」という。）については、原則として適用しない。ただし、U-12-11（高学年）についてはジュニアラグビーとの関連を考慮しELVs11、12項に準じた新規則を制定する。これに従い、従来2人とされていたハーフバックの人数を1人とする。この他の項目についてELVは適用しない。

〔実施時期〕

2008年-2009年U12ミニラグビー競技規則は、原則として2008年（平成20年）9月1日から適用します。

プレーヤー、グラウンド、時間

		1・2年生 (U7-8)			3・4年生 (U9-10)			5・6年生 (U11-12)		
1	プレーヤー	・プレーヤーは各学年別にグループ分けすることを原則とする。								
2	チーム	・5人	FW	1人	・7人	FW	3人	・9人	FW	3人
			HB	1人		HB	1人		HB	1人
			BK	3人		BK	3人		BK	5人
3	競技場	・40m以内×28m以内			・60m以内×35m以内			・70m以内×40m以内		
					・フルグラウンドのインゴールラインと10mラインと5mラインに囲まれた地域をフィールドオブプレーとする。 					
4	試合時間	・10分ハーフ以内			・15分ハーフ以内			・20分ハーフ以内		
					・12分-3分-12分			・15分-3分-15分		
5	使用ボール	・3号ボール			・3号または4号ボール			・4号ボール		
					・4号ボール					

競技方法

1. キックオフ 及びドロップアウト

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	キックオフ	・ハーフウェイライン中央でタップキックからのパス。 ・相手側はタップキックの行われる地点からゴールラインに平行して5m下がる。	・ハーフウェイライン中央でドロップキック。あるいはブレースキック（下に置いて蹴る）。	・ハーフウェイライン中央でドロップキック。
			・相手側はキックの行われる地点からゴールラインに平行して5m下がる。 ・キックオフは5mラインに達しなくてはならない。 ・相手側の陣形が整う前にキックが行われた場合はキックのやり直しを命じる。	
2	得点後のキックオフ	・得点された側のチームがキックオフの方法で行う。	・得点した側のチームがハーフウェイライン中央、またはその後方よりドロップキックまたはブレースキック。	・得点した側のチームがハーフウェイライン中央、またはその後方よりドロップキック。
3	ドロップアウト	・ゴールライン中央から5mフィールドオブプレーに入った地点でタップキックからのパス。 ・相手側はタップキックの行われる地点からゴールラインに平行して5m下がる。	・10mライン上か後方でドロップキックかブレースキック（下に置いて蹴る）のどちらかで行う。	・15m(10m)ライン上か後方でドロップキックで行う。

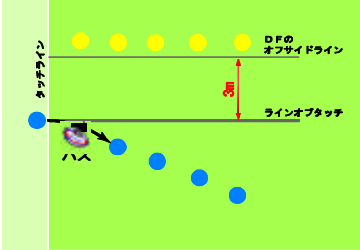
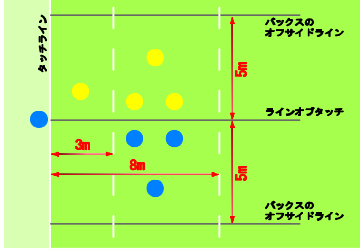
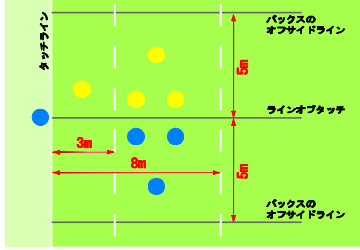
2. キック

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	キック	・プレーを開始・再開するためのタップキック以外は禁止、これに反した場合はキックが行われた地点で相手スクラム。	・ボールを手で保持した状況から以外のキック（地上にあるボールを蹴るようなキック）は禁止。	・全てOK。
2	ダイレクトタッチ		・ダイレクトタッチは10mライン内からならOK。	・ダイレクトタッチは15m (10m) ライン内からならOK。
3	フライキック		・フライキックは全て禁止。（「フライキック」とは、見境のないコントロールされないキックと定義される。普通は地上にあるボールをキックする場合に起きる。）	
4	ドリブル		・禁止 (OK)	・OK
5	罰則	・キックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。		

3. スクラム

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	人 数	・フロントロー1人で組む。	・フロントロー3人で組む。	
2	組 み 方	・プレーヤーの習熟度に応じて、頭を組み入れないハンドスクラムを行うことができる。 ・左腕は相手の右腕の内側、右腕は相手の左腕の外側になるようにして相手のジャージの背中または脇をつかむ。	・フッカーは両プロップの腕の上からバインドする。（オーバーオーバーでバインド） ・プロップは、内側の腕でフッカーをバインドする。 ・組み合った後、プロップは相対する相手としっかりバインドをする。	
		・足はスクエア（前後しない）にして相対するプロップの腕に軽く触れ、その後おだやかに組み合う。 <i>（自分の体を支えるようにして組む・・・足を前後してもよい）</i> ・頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組み、スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。		
3	ボールイン&プレー再開	・ボール投入は行わない。 ・フロントローの右足元（つま先の前）にボールを置く <i>（かかとの後ろに置く）</i> 。	・ボール投入は行わない。 ・フッカーの右足元（つま先の前）にボールを置く <i>（かかとの後ろに置く）</i> 。	・ボールの投入はハーフバックが行う。 ・ハーフバックは、いかなる場合でもスクラムから出てくるボールを扱う最初のプレーヤーでなければならない。 ・ハーフバックは、あたかもボールに触れたかのようなそぶりやボールに触れずに時間を空費する行為をしてはならない。 ・ハーフバックが故意でなく最初にボールをプレーすることができなかった場合、全てのプレーヤーがプレー可能。 ・「ノンコンテストスクラム」であるが相手側にボールを誤って蹴ってしまった場合は続行する。 ・スクラムで相手ボールを獲得した場合、獲得した側のチームはスクラムを形成しているプレーヤー以外のどのプレーヤーも <i>のハーフバックは</i> 、スクラムから出たボールをプレーすることができる。 ・フッカーは、故意にボールを相手側に蹴り出したり、自チームオフサイドラインまでボールを掻いてスクラムを終了させたりしてはならない。
4	オフサイドライン	・防御側バックスのオフサイドラインはスクラムの味方プレーヤーの後方の足から3m下がったゴールラインに平行した線。		・スクラムに参加しないプレーヤー（ハーフバックを除く）のオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線。
		・防御側ハーフバックのオフサイドラインはスクラムの味方プレーヤーの後方の足を通りゴールラインに平行した線。 （スクラムから1m以上離れるプレーヤーはHBではなくバックスとみなされる。） <i>ハーフバックはフォワード（プロップ）の尻に手を置くことによって1m以内とみなす。</i>		・防御側ハーフバックのオフサイドラインはスクラムの味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行した線。 （スクラムから1m以上離れるプレーヤーはハーフバックではなくバックスとみなされる。） <i>ハーフバックはフォワード（プロップ）の尻に手を置くことによって1m以内とみなす。</i> ・バックスのオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを超えてプレーすることはできない。 ・【例外】防御側がボールを獲得した場合、バックスのオフサイドライン まで下がった防御側のハーフバックは、獲得したボールをプレーするためにオフサイドラインを超えてプレーすることが許される。
				・オフサイドラインはスクラムが終了するまで解消されない。
	スクラムの終了とスクラムオフサイドラインの解消	・ボール投入側のハーフバックのパスを、バックスのプレーヤーがキャッチした時点。 <i>（ハーフバックは必ずパスをする）</i>	・ボール投入側のハーフバックがボールをパスした時点。 <i>（ハーフバックは必ずパスをする）</i>	・ボールを獲得した側のハーフバックがボールに触った時点。 ・スクラムに投入されたボールがスクラムに参加していないプレーヤーのオフサイドラインに達した時点。 →ボール投入側のハーフバックがボールに触った時点。 <i>（削除）</i>

4. ラインアウト

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	ラインアウトの形成と補足	・ラインアウトは行わない。 ・タッチになった地点より味方にパスをする。 ・相手側はボールがタッチになった地点より3m下がり邪魔をしない。 ・ゴールラインより5m以内の場合はゴールラインから5mの地点。	・タッチになった地点より3mから8mの間で並びプレーヤーは2人である。 ・双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な間隔を空ける。 ・ゴールラインより5m以内の場合はゴールラインより5mの地点。 ・ボールの競り合いはなく、必ず投入側がジャンプしてボールを取る。(削除) ・ジャンパーに対するサポートプレーは禁止	・タッチになった地点より3mから8mの間で並びプレーヤーは2人である。 ・双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な間隔を空ける。 ・ゴールラインより5m以内の場合はゴールラインより5mの地点。 ・ジャンパーに対するサポートプレーは禁止
2	ボールを取ったプレーヤーの制限		・ボール取ったプレーヤーは必ずHBにボールを出さなくてはならない。	・HBにパス。又はラインアウトを割って出ても良い。
3	オフサイドライン	・ボールがタッチになった地点より3m。 	・ラインアウトに参加していないプレーヤーのオフサイドラインはラインオブタッチから5m。 	・ラインアウトに参加していないプレーヤーのオフサイドラインはラインオブタッチから5m。 

5. ゴールキック

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	ゴールキック	・行わない。	・ゴール正面から行う。	・トライをした地点を通りタッチラインに平行した線上から行う。 ・キッカーの好きな地点から行える。

6. ファールプレー及びペナルティ

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	ファールプレー	・ 防御の際に、相手を振り回すプレー、相手をチャージしたり、突き倒したり、またはタッチに突き出すプレー、フェンドオフ(腕を横に振り、相手を払い除けるプレー) はいずれも危険な行為である。		
2	ペナルティー	・ タップキックにより再開し、相手は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5m下がる。 ・ 反則の地点が相手側ゴールラインから5m以内の場合は、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5mの地点となる。 ・ 反則の地点が自陣ゴールラインから5m以内の場合も、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5mの地点となる。 このときのタップキックは相手がマークより5m下がってから行うこととする(早いリスタートはしない)。		
3	フリーキック	・ ペナルティキックと同じ。		

補足

		1・2年生 (U7-8)	3・4年生 (U9-10)	5・6年生 (U11-12)
1	インサイドコーチ	・ 各チーム1名のコーチがグラウンドに入れる。 ・ ゲーム中そのコーチは、自軍の最後尾のプレーヤーより後方に位置する。 ・ そのコーチの発言は建設的なものでなくてはならず、ヒステリックに怒鳴ってはならない。 ・ レフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。 ・ レフリーはコーチの言動が建設的ではない、あるいは試合の進行に妨げがあると判断した場合、試合を停止し、コーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、レフリーはそのコーチを退場させることができる。 ・ 退場を命じられたコーチは、速やかに競技場から離れなければならない。	→3年生のみ1・2年生と同様に各チーム1名のコーチがグラウンドに入ることが許される。(2008年削除)	
2	サイドコーチ	・ 試合中、コーチは定められた区域内に位置し、プレーヤーに対して建設的な指示・助言を行える。 ・ ヒステリックに怒鳴ったり、レフリーの判定に異議を唱えたりしてはならない。 ・ レフリーはコーチの言動が建設的ではない、あるいは試合の進行に妨げがあると判断した場合、試合を停止し、コーチに注意をする。それでも改善が見られない場合、レフリーはそのコーチを退場させることができる。 ・ 退場を命じられたコーチは、速やかに競技場から離れなければならない。		
3	タップキック	・ ボールを地面に置き、いずれかの方向にボールを明確に蹴り進めることであり、手の中のボールをチョンと蹴ることではない。		
4	キャバリー・チャージ	・ 防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーで競技規則に反するプレーである。		